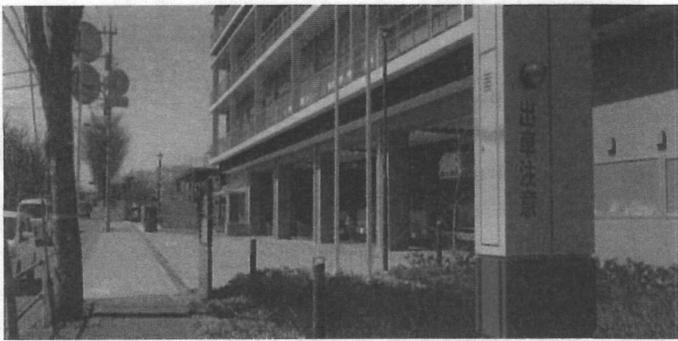


市連会長研修会報告

今回の会長研修会は、一昨年新築された町田消防署で行われた。新しい町田消防署は6,000平米の広い敷地に建設され、本署の建物を始め各種の訓練施設を備え、消防署員、消防団員だけでなく、市民に対しても必要な訓練を行える設備を備えている。

研修会は、その防災教室で行われた。



…… 防火防災講演 1 ……

はじめに新藤博町田消防署長の講演を聴いた。新藤署長は、阪神淡路大震災の救援医療チームの一員で派遣された経験から、大規模災害の際に明らかになったさまざまな課題について話された。

阪神淡路大震災では都市直下型地震によって起こる問題が明らかになったが、その多くはかつて経験のないものであった。ここで行われた救援活動はその後の災害対応の準備に大きな教訓をもたらした。D-MATをはじめとする緊急援助隊の整備、ハイパーレスキュー隊の創設、災害被害予測システムの拡充等である。

この災害では大規模な建造物の崩壊などによって救援活動は困難を極めた。また被害を大きくした原因の一つに多くの地点で発生した火災がある。この地震で犠牲になった方々は建物の倒壊による圧死だけでなく地震後に起きた火災によるものも多かった。一方家屋の倒壊等に巻き込まれても救助された人々の中には近隣の人々によって助け出された人が3割近くいた事は共助の大切さを改めて認識させることになった。

それまでは認識されることがなかった「通電火災」も被害を大きくした原因であり、広く知られるようになった。また、災害後の「避難所」運営の諸課題も明らかになってきた。

この震災は災害から自分自身の身を守るための準備や、前述した地域のコミュニティーによる共助の重要性の再確認、また「ボランティア元年」と言われるように広範な人々による援助の機運を高めることとなったと言える。



…… 防火防災講演 2 ……

つづいて、町田消防署地域防災担当課長の早坂誠氏による地震発生時対応の講演を聴いた。

首都直下型地震の発生の可能性などが取りだたされている現在、地震発生後に我々町内会・自治会がどのように対応するかということが中心の講演であった。

防災訓練は各町内会等で行われているが、内容についてはマンネリ感を抱いたり、実効性に疑問をもつ事も多い。防災訓練をより有効なものにする市内の町内会の取り組み事例が2つ映像で紹介された。発災対応型訓練と言われるものだ。

特に町内会による初期対応の重要性がよく分かる内容であった。特に重要な点は、

- ・町内会、自治会、商店街などの共助の力が必要。
- ・災害発生時には一時避難場所を拠点に初期対応。
- ・町会本部の機能強化と指揮能力の向上。
- ・住民の情報、特に災害時要援護者の確認。
- ・救助活動に備える備品の拡充（D級ポンプ、スタンドパイプ、ジャッキ等の準備）

映像ではこれらがどのように機能していくのか具体的に示され、理解を深めることができた。

消防署では、地域毎に火災発生時の広がり方のシュミレーションも行っており、要望があれば「防災講演会」等で公開する事ができるそうだ。

地震等の災害は何時という事でなく確実に起こる。「その時はその時」ではなく、できる備えはしておくことの大切さを訴える講演であった。

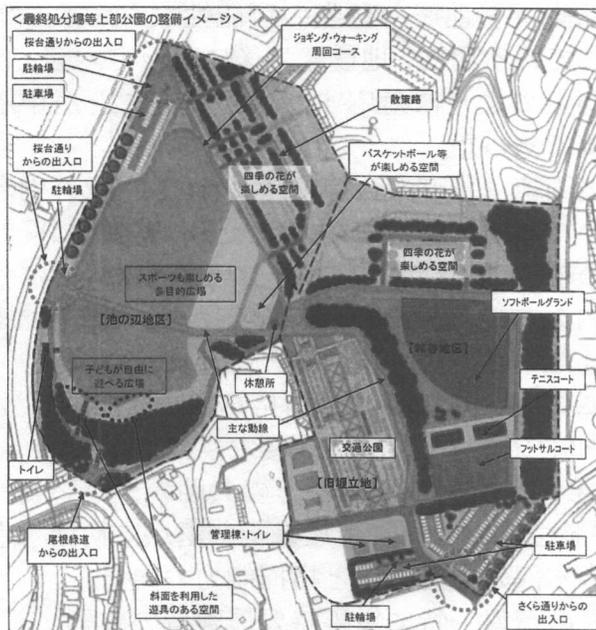
編集委員 北島 卓美

多摩都市モノレール延伸の

忠生地域のまちづくり

町田市は、中心市街地まちづくり計画や南町田駅周辺地区、芹ヶ谷公園、薬師池公園、野津田公園整備のまちづくりを進めるなど、魅力アップ施策を展開していきます。

忠生地域のまちづくりは、市のごみの処理施設建替建設に伴い、町田リサイクル文化センター周辺地域まちづくり協議会が、地域まちづくり要望の「忠生地域・バリューアッププラン」を策定しました。市とまちづくり基本協定を結び、市と住民が協議を重ねながら、逐次、市の計画に位置づけ、段階的に事業化が進められています。これにより再生のあかつきには質と価値の高い魅力ある（バリューアップ）地域が形成でき、多くの人が“住み、憩う、訪れる”「将来にわたって選ばれるまち」の実現を目指しています。



熱回収施設等の周辺施設整備基本構想より
(最終処分場等上部公園の整備イメージ)

一方、時を同じくして、忠生地域のまちづくりに不可欠な鉄道も整備路線格上げによって多摩都市モノレールの延伸が（2032年実現目標）予定され、また小田急多摩線の延伸も（仮称）小山田駅の周辺まちづくり協議会が開始され、交通過疎の解消が現実味を帯びてきました。

市のまちづくりは、市民との協働などにより「多摩都市モノレールの延伸を前提として、これから先のまちづくりを進める。」としています。

忠生地区でも、多摩都市モノレール延伸の早期実現のため、昨年8月には、忠生地区町内会・自治会連合会が中心となり取り纏めた1万1千人署名の要望書を市長と都知事に提出しました。

さて、地域まちづくり要望の「忠生地域・バリューアッププラン」は、地域の再生を促すため、自然環境を活かしながら「健康・交流のまち」を目指すもので、地域の活性化と地域の魅力向上の計画です。

この計画は、モノレール整備路線の予定駅に隣接する町田リサイクル文化センター西側の最終処分場と旧埋立地の跡地などを活用して、スポーツ公園と自転車教習の交通公園、防災機能をもつ健康増進の温浴施設、地域振興の道の駅などの施設を整備するものです。



周辺整備では、忠生地域の豊かな自然環境や自然資源を活かし、スポーツ公園や交通公園などの拠点施設と結ぶ、回遊ネットワークをつくります。

周辺主要道路や尾根緑道等を再整備し、散策ルートやウォーキング、ジョギング及びサイクリングコースに専用通行帯（レーン）を設置するものです。

ネットワークの新たな交通手段には、コミュニティバスの運行とともに、コミュニティサイクル事業を開始するため、整備施設、最寄り駅、公共施設、商業施設にサイクルポートを設置し、環境に優しい自転車のまちづくりの提案があり、注目が集まります。

忠生地区は、恵まれた地理と地形で、スポーツ、健康、交流の場の適地として、これまでも、マラソンやトライアスロン競技などの実施や、奇しくも、来年開催の東京五輪大会の自転車ロードレースに選定されました。このように、ポテンシャル注目度も高い、地域の再生計画の整備によって、より多くの市民がスポーツを楽しみ、健康増進、交流が図られ、交通安全都市宣言もより声高くなるなど、市の魅力アップ施策が期待されます。

また、多摩都市モノレール延伸の忠生地域のまちづくりは、「忠生地域・バリューアッププラン」による中・長期にわたる計画でもあるので、市のまちづくりには、これからも市民目線、幅広い知見、長期的視点を持った「市民との協働のまちづくり」が求められます。編集委員 守屋和夫